

SLOC 通信 原稿

2018 年 10 月

ロコモの理解度を上げるために

麻生整形外科クリニック

麻生邦一

ロコモの認知度を 2022 年までに 80%に上げるのに日本整形外科学会、日本臨床整形外科学会あげて努力していることはご存知の通りである。認知度のほかに理解度という指標があることを御存じであろうか？「言葉も意味もよく知っていた、あるいは大体知っていた」が理解度であり、一方、認知度とは「言葉は知っていたが意味はあまり知らなかった」、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」まで含めている。意味を知らない人がロコモの予防をするはずはなく、認知度を上げれば良いということにはならない。理解度を上げることこそ重要なことではあるまいか？

では理解度はどうなっているか、、、？ 運動器の健康・日本協会の 2018 年 3 月の調査では認知度 48.1%となっているが、理解度は 20.3%と少ない。ちなみに 2017 年は 46.8%、理解度 20.9%、2016 年は認知度 47.3%、理解度 19.9%、2015 年は認知度 44.4%、理解度 18.3%となっており、ここに来て上昇が鈍っている。学会は事あるごとにロコモの講演を行い、毎年「骨と関節の日」に全国で講演、体操など企画し、ポスターを配布し、小冊子を作ったりと努力はして来た。もちろん有効な方法であるが、最も効果的な PR の方法は、これまで日本整形外科学会が疾患パンフレットを作成し、医療機関で説明して患者さんに配っているように、ロコモについて分かり易いパンフレットを作成し、来院する患者さんに配れば一挙に理解度は上がるし、ロコモ予防につながると考える。